

家畜放牧でイノシシ被害を軽減

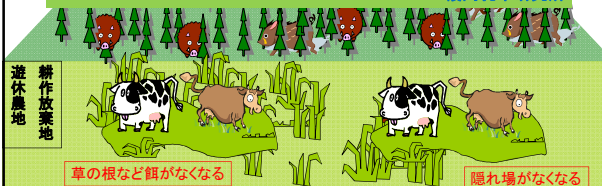
捕獲されたイノシシ肉の利用

野生鳥獣害研究チーム
畜産部会 23年度研究成果

畜産総合研究センター

家畜の放牧ゾーニングによるイノシシの農作物被害低減効果の検証 (H22~24)

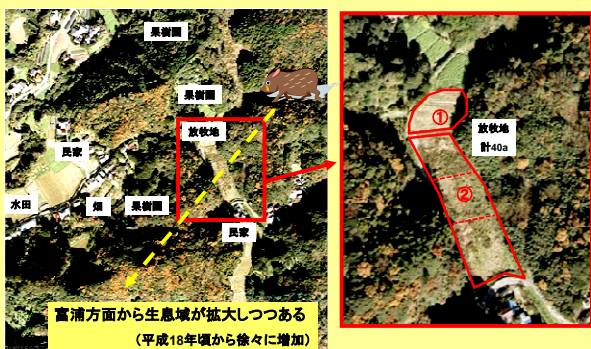
酪農乳牛研究所



放牧ゾーニングとは、被害の多い山際の耕作放棄地に牛を放牧し、野生鳥獣のすみかとな農地の間に緩衝地帯を設け、農作物を守る技術

田・畑

試験地(館山市小原地区)



平成23年度の放牧状況



試験地: 館山市小原地区の耕作放棄地(約40a、電気柵設置)

放牧牛: 黒毛和牛(雌)2頭

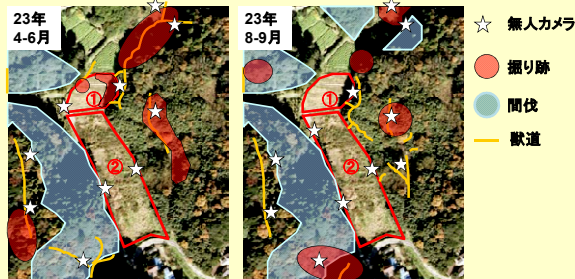
放牧期間: 年2回 6/7~6/30(24日間)・8/16~9/26(42日間)
22年は3回 春 5/12~6/2・夏 7/13~8/6・秋 9/21~10/18

放牧地周辺の間伐(平成22年 11月~)

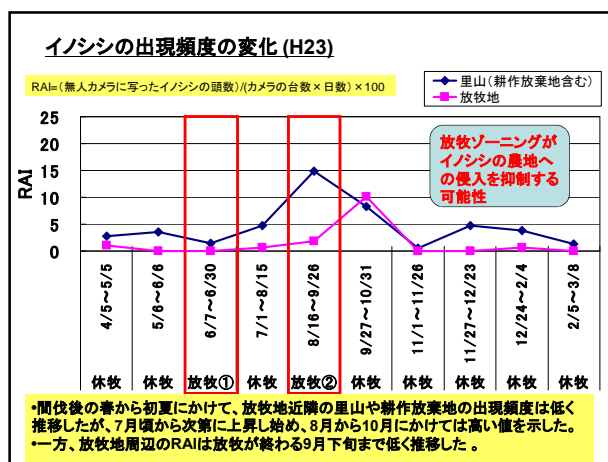
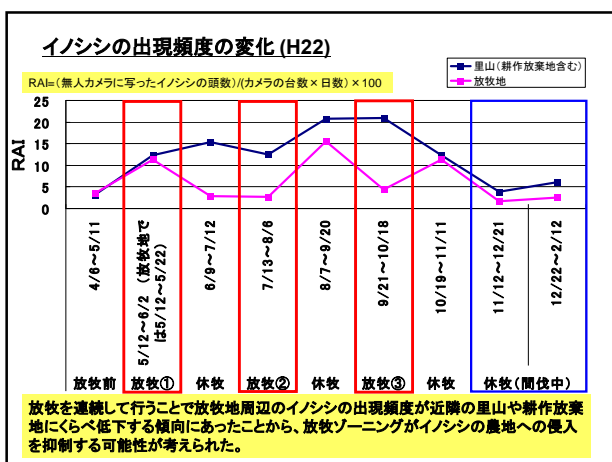


平成22年11月から平成23年2月にかけて、放牧地の西側に隣接した山林で、館山市、森林組合による大規模な間伐が行われた。

イノシシの獣道、掘り跡の分布



- 間伐、地元住民による掃除刈り等が行われたため、放牧地周辺及び近隣の里山に通っていた多くの獣道でイノシシの痕跡が少なくなった。
- 夏が過ぎ稲刈りの時期になると、間伐地にも雑草や竹が繁茂し、放牧地近隣の里山に見られる痕跡も次第に増えていった。



集落での聞き取り調査 及びまとめ

(24年1~2月)

- 里に出没するイノシシは減った、あるいは出没が散発的になったという意見が多かった。
ただし、捕獲頭数からイノシシは減っていない印象。
- 農地への電気柵の設置、箱ワナ等の増設、大規模な間伐の効果があったと考えられる。
→ 放牧単独の効果は不明だが、集落ぐるみでの複合的な対応が有効。
放牧を含めた複数の対策の相乗効果か？
- 放牧地を横断するイノシシをあまり見かけなくなった。
- 放牧地より南の地区での出没が目立つようになった。
→ 放牧の効果か？